

## ウ 考察

本研究では、持続可能な社会づくりを目指して、多面的・多角的な見方を育て、自らの課題に気づき、課題解決を図ろうとする意欲を高めることを目的として、授業実践に取り組みました。そこで、以下の2点を視点に授業実践を考察します。

### <考察の視点>

視点1：多面的・多角的な見方が育成されたか

視点2：自らの課題に気づき、課題解決を図ろうとする意欲が高まったか

なお、考察にあたっては、授業実践で使用したワークシートの記述及び事後調査を基に行います。

### 視点1：多面的・多角的な見方が育成されたか

#### (7) 抽出した生徒のワークシートの記述

表1に、生徒5名のワークシートの記述内容をまとめました。ワークシートの記述を見ると、協働学習前後の選ぶ視点が変化している生徒、重視する視点は変わらないが、購入した後の使い方を考えて選んでいる生徒がほとんどでした。また、持続可能な社会を目指して自分がこれからできることに関しては、表1のピンク色で示しているように、衣生活だけでなく、自分の生活全体と結び付けて考えている生徒が多く、購入前から購入後に至るまで、様々な角度から消費生活を捉える記述が多く見られました。今回の検証授業では、1・2時目、3時目共に、問いに対する答えを「個人→グループ→クラス全体→教師による補足説明（既習事項を踏まえて）→個人」の流れで考えています。自分がもともともっていた考えに、自分とは違う他者の意見や新たな知識を取り入れることで、多面的・多角的な見方で再度考えをまとめることができるようになったと考えます。

表1 ワークシートの記述内容

	協働学習前に選んだジーンズとその理由	グループ全員で選んだジーンズとその理由	協働学習後に選んだジーンズとその理由	持続可能な社会を目指して、自分がこれからできることを考えてみよう
生徒1	B 安くて、知っているメーカーのものだから	C 日本製で安いから	D 日本製で、フェアトレードのものだから	ものを購入するときは、本当に必要なのか、どのように作られたかなどを考えていきたいと思った。また、石油や天然ガスなどの資源の採年数が短いので、これまでの消費生活を一人一人が見直す必要があると思った。
生徒2	C 日本製で、値段も安いから	B 着心地がよく、安いから	B 着心地がよく、安いから	今まで自分が何気なく着ていた洋服も出来上がるのにすごい苦労と、時間がかかっていることを知りました。だから私は洋服だけでなく、物を今まで以上に大切に扱ってほしいと思いました。
生徒3	A 安いから	C 日本製で安いから	D 環境にやさしいから	自分は寮生活をしていて、日用品などを自分でスーパーに買いに行くことが多い。そこで毎回レジ袋をもらうので、これからはマイバックを持っていきレジ袋を使わないようにしたい。また、商品を買うときは、それが本当に必要なのかよく考えて買いたい。
生徒4	A 見た目、デザインがかわらないなら、安い方がいい	B 安すぎず、高すぎず、長く着れそうだから	D 正当に取り引きされたジーンズだから。もし、Eを買うお金があったら、Eを買ってみたい	私は、今まで服については値段とデザインだけを見て買っていたけど、見直すべきだったと思います。その服が作られるまでの背景などもわかって買くと、服に対する扱いと愛着は違うと思いました。
生徒5	B 安すぎず、まあまあ長く着れそうだから	B 安すぎず、高すぎず、長く着れそうだから	D 値段は少し高いが、オーガニックコットンの特徴を知ってDが良いと思った。日本製で安心だから。	物がダメになるとすぐに新しいものを買いかえるのではなく、長く使えるように工夫したり、他に使い道がないか再利用を考えたりして、消費・使用問題と廃棄の問題について少し解決できるのではないかと思います。持続可能な社会のしくみを理解できたので、自分にできることをしていきたいです。

## (イ) 授業で出た意見

1・2時目の授業で使用した思考ツールへの書き込みを、今回の実践において育てたい多面的・多角的な見方の一例の表に当てはめてみると、多面的・多角的な視点が様々出てきているのが分かりました。班で使用した思考ツールについては、全体の立場や生産者の立場からの意見が多く出ていましたが、個人で考える場面においては、ワークシートの記述から見ても、個人や消費者の立場からの意見が多く出ていました。ジーンズを選ぶ際に、個人や消費者の立場からの視点に、全体やフェアトレードなど生産者の立場からの視点を加えていったことが分かります。

さらに、3時目では、衣服のライフサイクル図を基に、問題点を挙げていく中で、「大切にしない」「使い捨て」という文化的な側面に関する意見も出ました。日本はもともと、浴衣を赤ちゃんの布おむつとして使い切るなど循環型社会が成立していました。しかし、衣服の西洋化や縫製技術の発達等でもともとあった文化に対する意識が薄くなってきています。今回は、衣服の国際化や着方等に関する意見は出ませんでした。学習指導要領でも衣生活文化を扱うようになっていきますので、文化的な側面に関する視点は、今後必要な視点となってくると思います。

主体的・対話的な学びの中で、多面的・多角的な見方が育っていく過程が見られました。

## (ウ) 家庭生活アンケート結果

家庭生活アンケートを学習の前後に、次のような条件で行いました。

調査条件		
調査時期	事前調査	事後調査
	平成28年6月第4週目	平成28年11月第2週目
調査の対象となる期間	中学校3年生の時から1年間について	平成28年10月以降について (本題材学習期間の8週間について)

高等学校の実践では、思考ツールを活用しながら協働学習を行いました。思考ツールを使った学習については、**図1**のように「意見が整理しやすかった」「分かりやすかった」「いろいろな考えが出てきてよかった」の回答が多く、全員が肯定的な回答をしていました。また、協働学習については、「自分が考えていない視点からの意見が聞けて考えの幅が広がった、考えが深まった」「意見の共有ができてよかった」との意見が多く、思考が深まったことが分かります(**図2**)。

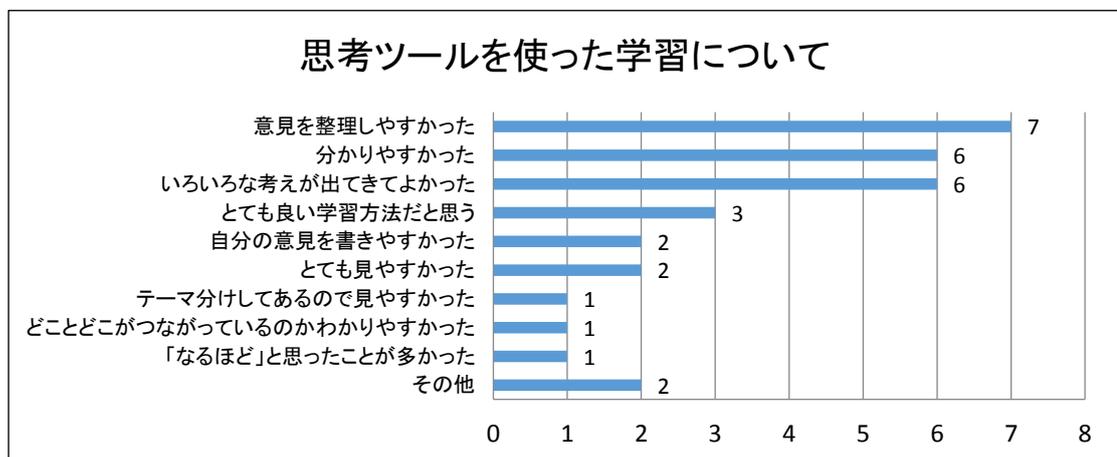


図1 学習後の家庭生活アンケート 結果1

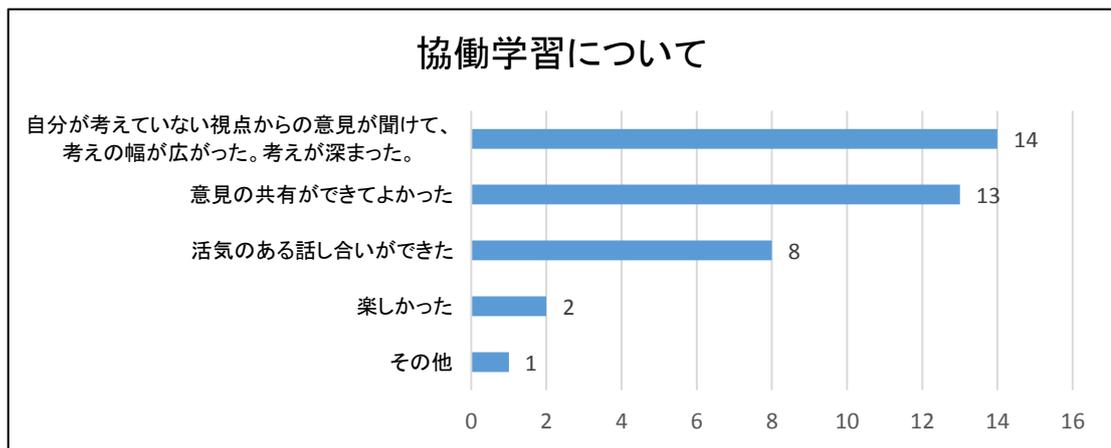


図2 学習後の家庭生活アンケート 結果2

自分の意見、他者の意見を整理したり可視化したりすること、また、対話的な学びによってこれまで自分がもっていなかった考えを知ることで、多面的・多角的な見方ができたといえます。

### 視点2：自らの課題に気づき、課題解決を図ろうとする意欲が高まったか

#### (7) 抽出した生徒のワークシートの記述

ジーンズを選ぶ視点については、考察の視点1の(7)でも述べたように、協働学習を経て変化した生徒、変化しなかった生徒がいました。しかし、表1の生徒3、生徒4のように、値段だけデザインだけの視点から、着心地や環境の視点を踏まえて、自分の価値観と照らし合わせて選んでいました。題材を貫く問いとして設定していた「持続可能な社会を目指して、自分がこれからできることを考えてみよう」については、自分自身の生活の具体的な課題を取り上げ、どのように行動したいかということまで記述しているものが多くありました。多面的・多角的な見方ができたことが、自分自身の生活課題から家族・家庭の生活課題、地域社会の生活課題に対する課題意識をもつきっかけになったと思います。課題意識をもつことが、実践意欲につながる第一歩ですので、身近な生活課題に気づき、自分ができることをきちんと考えることができたことは、課題解決を図ろうとする意欲が高まったということができると思います。

#### (1) 家庭生活アンケート結果

家庭生活や地域社会での実践につなげるのが家庭科の特徴です。そこで、意欲の高まりについて、検証授業後の家庭生活アンケート結果からも考察を行います。

家庭の仕事について、「もっと進んでするようにしたいと思うこと」に関しては、「過ごしやすように、部屋の温度や空気を調節する」の項目以外はすべて数値が上がっています。特に、「包装や入れ物がゴミになりにくいものを選んで買う」の項目は大きく上がっています(図3)。「もっと進んでするようにしたい理由」では、事前調査では「大人になったら必要だから」の項目の数値が一番多かったのに対して、事後調査では「環境に良いから」の項目が一番多くなっています(次頁図4)。その他、「使うお金が少なくてすむから」「住みやすい地域になるから」の2項目も事後に増えており、消費生活や環境、地域に対する興味・関心が高まったと考えられます。

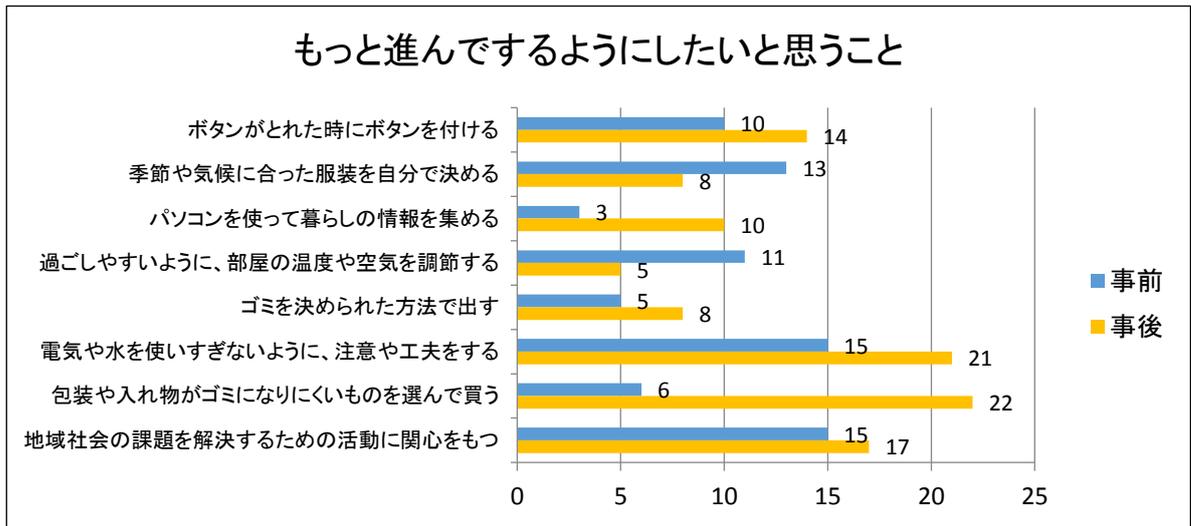


図3 学習後の家庭生活アンケート 結果3

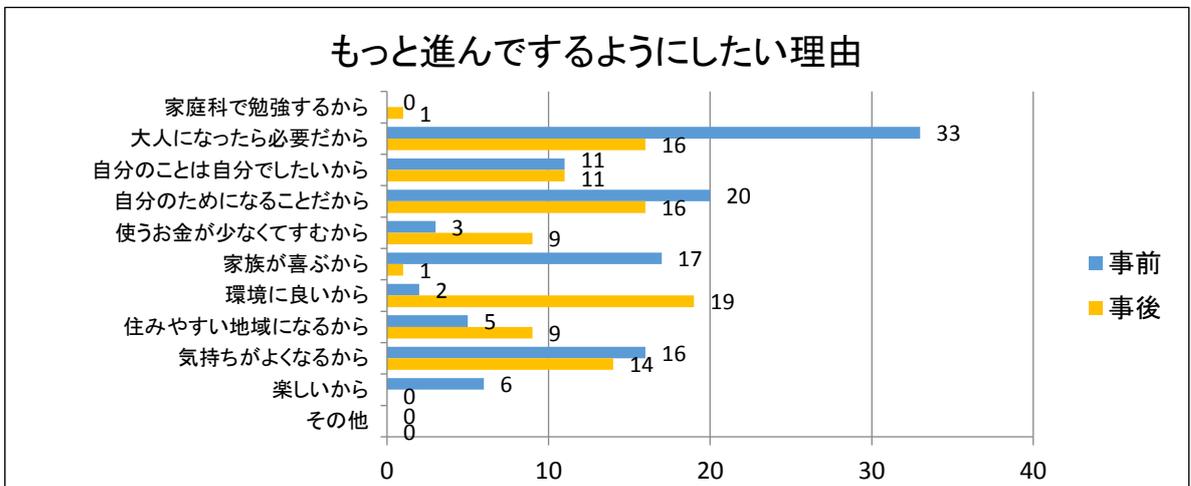


図4 学習後の家庭生活アンケート 結果4

また、検証授業後、「普段の生活の中で気にするようになったこと」に関しては、75%の生徒が衣服を購入するときに原産国や表示を気にするようになったと回答しており(図5)、これまでの意識が変化しているのがわかります。さらに、「実際に行動に移したこと」についても、衣服の購入の際に原産国や表示を見るようになったという生徒の数が半数に上りました。その他にも、フェアトレード商品を買った、無駄遣いをしなくなった、食品の購入の際にも表示を確認するようになったなど、75%の生徒が、自身の生活の様々な場面において実践できたことは非常に評価できることだと思います(図6)。自身の生活の中で課題に気づき、解決しようとする意欲が高まり、実践に結び付いたと考えられます。

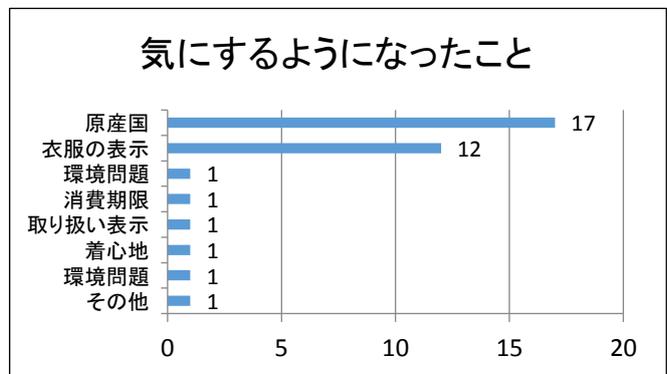


図5 学習後の家庭生活アンケート 結果5

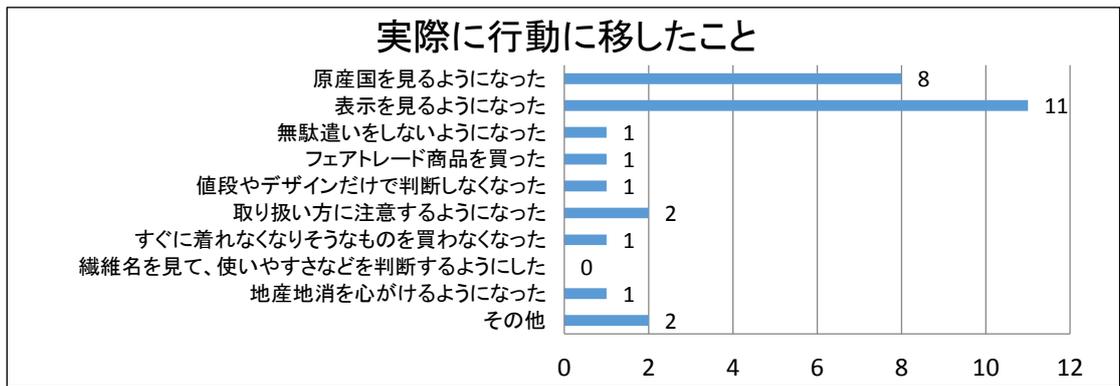


図6 学習後の家庭生活アンケート 結果6

**実践を振り返って**

今回の実践は、これまでの教科指導の在り方について見直す良い機会になりました。これまでは、調理実習や被服実習等以外の内容に関しては、知識・理解を重視し、講義型の授業が多くなりがちな実情がありました。しかし、資料1からも分かるように、多面的・多角的な見方を育てる上で、自分の考えを可視化すること、他者の考えを知り、新たな知識や価値観を得たりすることが重要なことだと分かりました。知識・技能を身に付けるだけの教科と思われがちな家庭科で、問題解決的な学習を行うことの重要性を再確認することもできました。また、より身近な教材・題材を取り上げ、生徒に当事者意識をもたせることは、自分自身の生活の課題に気付かせる手立てとして非常に有効だったと思います。

グループでの活動が多くなり、自分以外の考えをきくから、授業の内容を学んだのでよかったです。

思考ツールを使った授業でわかりやすかった。、班での話し合いで、意見が出しやすかった。

いつも授業と違う授業は、新しくして楽しかったです。普段の授業もこうなるといいな...と思った点がいっつかありました。

もっと活動の時間を増やしてほしいです。これから

普段、考えはいいと考える授業で、今後、物を買った時、よく考えようと思うことができた。

いつもとは違うことができて、楽しかったです。授業のスピードや中身も分かりやすくて良かったです。

動画を見て、グッとときた。知りたかったことや、知っていたことを深く知ることができた。

グループで活動をしたので、自分以外の考えも出てきた。意見も出てきて、活発な活動ができました。

動画とかを見て、分かった。それから、自分か心のゆとり生活していいのが改めて感じることができました。

これまでの話し合いと活動が、木々で学習する場面が多く、自分の考えが深まると、相手の意見を知らなかったことができて良かったです。

とてもわかりやすかったです。今回の授業をきっかけに、衣服を選ぶときに原産国や無駄な縫製を見たりするようになりました。これから頑張ります。

資料1 題材全体についての感想